

令和6年度

学校自己点検・評価報告書

令和7年6月

学校法人朝日学園  
成田国際航空専門学校

## ○令和 6年度 学校自己評価について

成田国際航空専門学校は、「工業分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国の航空産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会の発展に寄与することを目的として運営されています。また、平成26年度に文部科学省から「職業実践専門課程」と認定された航空整備学科、およびグランドサポート学科では、航空分野の諸企業との密接な連携のもとに、「学校運営の適正化」および「教育内容の充実」が図られています。

本校では、平成25年4月に定めた「自己点検・評価規程」に従って、学校自己点検・評価委員会を設置し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

### 1. 対象期間

令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日

○委員会開催 令和7年6月26日(木) 14:00～15:40

### 2. 実施方法

(1)学内に「学校自己点検・評価委員会」を設置し、委員会を中心に教職員一同により評価を行っています。

委員会構成:委員長 校長

委員:教務課長、航空整備学科長、グランドサポート学科長

(2)評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行いました。

(3)評価は年一回行います。

(4)評価結果は、課題と改善についてホームページにて公表します。

### 3. 自己評価は、以下の10項目を実施します。

(1)教育理念・目標

(2)学校運営

(3)教育活動

(4)学修成果

(5)学生支援

(6)教育環境

(7)学生の受入れ募集

(8)財務

(9)法令等の遵守

(10)社会貢献・地域貢献

## ○評価項目の達成及び取組状況

### (1)教育理念・目標 評価 4.0

(1)教育理念・目標		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
	評価項目	評価	状況と課題
1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	学校の教育理念は、就学規程に明記されている。 現教育理念「学徒の意志を尊重し、世を支える現場力を見据え、全人教育を旨とし、実践と反省と改善を継続し、自発力ある人材を育成する。」(就学規程2条)
2	学校における職業教育の特色を示しているか	4	航空分野に特化した科目の設定を行い、航空業界を担うグローバルな人材の育成を教育目標としている。また、関連機関・企業との教育連携を通して実戦的な人材を育成することを特色としている。
3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	社会経済の状況と航空業界、及び地域社会のニーズと将来性を見据えた将来構想を策定している。
4	学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	学校の理念・教育目標、特色・将来構想などは、ホームページで公開され、学生・保護者を始め一般に周知されている。
5	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	学校、学科の教育目標・育成人材像は、各学科において業界研究を行い、学科会議や教育課程編成委員会等を通して決定している。

#### 【今後の改善方策】

- 1～5  
・令和3年4月1日付けで法人本部、学校設置者が変更となったタイミングで学則、就学規程を改訂した。引き続き学生、保護者、教職員間の共通理解を図っていく。
- 2: 当校ホームページの学校案内に『職業実践専門課程』の認定校と、その概要について記載している。又、それらの活動内容(学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会の各資料、各議事録)について記載している。

## (2)学校運営

## 評価 4.0

(2)学校運営		評価：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		
	評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	学校の運営方針は「革新的かつ安定した経営により学生が勉強に専念できる環境を整備し、教職員が働きやすい環境を作るとともに、地元との共生を図り、当校の関係者すべてから愛され、誇りに思われる学校を目指します」と定めている。(ホームページに記載されている)	2: 航空専門学校として安定的な運営には若い教員の確保は欠かせない。又、教員採用にあたり、適切な人員計画の基に早目の人財確保が不可欠である。  3: 校務会で決定された事案については、各学科内にて情報共有されている。  4: 人事・給与に関しては、種々の雇用形態があり、法人本部にて一括管理している。就業規則は各人に明示している。  5: 法人本部主催の部会は毎月開催されている。  6: 地域との関係性維持のために、地域住民の意見に耳を傾け、騒音対策・学生マナーの向上等改善を継続していく。  7: 引き続きSNSでの情報発信を継続する。教育風景を織り交ぜ、より分かり易い情報の発信を行っていく。
2	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	事業計画は、将来構想、教育活動の実績を踏まえて策定され理事会・評議員会において承認を得ている。(令和6年度理事会にて令和7年度事業計画を承認)	
3	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	学校の意思決定は、隔月の校務会議(必要により臨時校務会議)により決定されている。また、会議の運営については、業務実施要領「会議体要領」に規定されている。	
4	人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	学校の人事、給与に関する規程等は定められており、法人本部事務局において管理している。	
5	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	学校の組織整備等の意思決定は、校務会議での方針決定を経て法人本部で最終決定される仕組みとなっている。	
6	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	航空業界や関連企業等との関係は密接な連携や求人採用等を通じた関係強化、社会規範の遵守を心掛けている。地域との関係は良好な関係を築いている。	
7	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	情報公開は、ホームページ等で行っている。また、学校関係者評価、教員情報、職業実践専門課程認定学科基本情報(様式4)は年度毎に更新し、常にホームページ上で最新の情報を公開している。	
8	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	学校法人の学校管理システムにより、学生の情報管理がシステム化されており、効率化が図られている。	

### (3)教育活動

### 評価 3.8

(3)教育活動		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
	評価項目	評価	状況と課題
1	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程は、教育理念に沿って編成・実施方針を策定している。</li> <li>・航空整備学科整備士コースは『教育規程』、技術コースは『教育基準』にそれぞれ定めている。但し、技術コースはR6年度を最後に開講していない。</li> <li>・グランドサポート学科は『教育基準』に定めており、両学科・各コースとも管轄省庁(文科省、国土交通省航空局)に届けている。</li> </ul>
2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育達成レベルは、就学規程に記載されている。又、学習時間は学則・教育規程・教育基準に規定されており、それぞれ管轄省庁(文科省、国土交通省航空省局)に届けている。</li> <li>・学習時間の確保に関し、上記規定を基に策定した教育計画に沿ってその進捗状況の管理を行っている。</li> </ul>
3	各学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	カリキュラムは、学科別に教育理念を踏まえて体系的に編成している。
4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	4～5: <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念を踏まえ、各専門分野の業界団体等が参画する教育課程編成委員会から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。</li> </ul>
5	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・航空局への届出が必要な規程・基準以外の航空整備学科カリキュラム一般科目(*)について見直しを実施している。R5年、R6年と連続して見直しを実施。</li> <li>(*)一般科目:SPI、英会話、危険物等。</li> </ul>
6	関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科は各専門分野の企業と連携し、年度計画を基に外部実習や外部講師による演習授業を導入して職業教育の充実を図っている。</li> <li>～R6年度は新型コロナウイルス感染症がほぼ終息したことから、以前の活動状況に戻った。連携企業の協力が得られ以下の実績となった。</li> <li>・昨年度(令和6年度)の実績               <ul style="list-style-type: none"> <li>航空整備学科:4社、5回 開催する事が出来た。</li> <li>* 令和5年度の実績は3社7回。</li> </ul> </li> <li>グランドサポート学科:4社、5回 開催する事が出来た。</li> <li>* 令和5年度の実績は6社7回。</li> <li>・航空整備学科に於いてはR5年度までANAとの連携がない状態であったが、R6年度は2日間にわたり羽田ブルーベース/成田ラインメンテナンスにて研修を実施した。</li> </ul>

#### 【今後の改善方策】

1～3:教育課程は教育理念を踏まえ、各専門分野の業界団体等が参画する教育課程編成委員会から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。引き続き継続する。

4～5:航空整備学科『技術コース』は訓練課程の認証を得ていたが、令和4年度末で認可を返上した。その関係で、R5年度に技術コースのカリキュラムの変更を実施したが、R6年度はコース自体開校していない為変更は行っていない。

6:各専門分野の職業教育を一層充実させていくためにも、関連行政機関、業界団体、企業等との連携を継続して図れるよう今後も柔軟に対応して行く。  
:ANAとの連携を今後も継続する。

7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生からの授業改善アンケートをもとにした授業評価体制が整備されている。</li> <li>・R6年度のアンケート実績 航空整備学科は全学年対象に49教科に対し実施した。 航空整備士コース:1年生14教科、2年生14教科、3年生21教科 技術コースはR7年開講しないことから実施しなかった。 グランドサポート学科は1学年対象に12科目に対し実施した。 各学科にて学生よりの意見を参照し、今後の教育に活かしている。</li> </ul>
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会を毎年度2回(＊)開催し、関連企業等からの評価を取り入れている。(＊)R6年度実績:8/6日、2/13日開催。
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、専門学校設置基準をもとに就学規程(第11条、第11条の2)で明確に定められている。また、省庁の認定学科に定められた基準を遵守している。
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科では、資格取得の指導体制、目標資格等に対するカリキュラムを体系的に構築している。また、放課後や休業期間中に対策授業等を実施し、実績向上に繋げている。</li> <li>・主な取得資格:二等航空運航整備士(航空機整備学科のみ)、 航空特殊無線技士、危険物乙四種、フォークリフト、 英語検定、高所作業車資格(グランドサポート学科のみ) ～英語検定に関し、当校を受験準会場として資格取得に向けた取組みを継続している。</li> <li>・航空整備学科では、英会話の授業内容を一部変更し資格取得に向けたカリキュラムに変更した。(R7年度はR6年度と同様の内容)</li> </ul>
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	本校の教員体制は、関係省庁の認定要件を満たしている。

7:  
 ・授業評価実施後のフォローアップ体制を継続し、カリキュラム充実に繋げていく。  
 ・アンケートの実施につき、可能な限り多くの教科で実施するよう取組んで行く。

10:  
 ・航空整備学科整備士コース:航空従事者養成施設として対象者全員の資格取得に向け取組んでいる。  
 ・上記以外の学科、コースに於いては、各種資格取得に向け取り組んでいる。  
 ・R6年度、航空整備学科はカリキュラムの授業時間の変更を実施。  
     航空整備学科 整備士コース  
     英会話:1年生 14時限 ⇒ 30時限に変更  
             2年生 20時限 ⇒ 30時限に変更

12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の教育内容に応じた教員確保は、かなり厳しいものの連携企業からの出向者にて対応している。</li> <li>・グランドサポート学科は、グランドハンドリング実習、カーゴハンドリング実習に企業から延べ4名の講師を受入れ対応した。R7年度も継続して2名の講師にて対応している。</li> </ul> <p>～R6年度実績 グランドハンドリング実習:444時間 カーゴハンドリング実習:102時間</p>	<p>12:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前述(2)学校運営2項と同様、ベテラン教官の交代要員として教員確保に向けた継続的な対応が必要で、多方面に働きかけを継続する。</li> <li>・グランドサポート学科では、引続き企業からの講師受入れを継続する。</li> <li>・教員数の推移</li> </ul> <p>整備学科:</p> <p>R5年度当初 13名(非常勤3名含) R6年度当初 11名(非常勤2名含) R7年度 12名(2名非常勤含)</p> <p>グランドサポート学科:</p> <p>R5年度 2名 R6年度 2名 R7年度 3名</p>
13	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校及び学科で研修計画を立て、教員の指導力育成、先端的な知識・技能等の習得を組織的に行えるよう整備を進めていて、業界団体や企業等と連携した研修を行っている。</li> <li>・連携企業からの情報を共有する事により各教員の資質向上に活かしている。</li> </ul> <p>・令和6年度企業と連携した研修実績 航空整備学科:教員一同参加の教員研修は1社1回、1協会1回。個別の研修は4社5回参加した。 グランドサポート学科:企業研修1回、協会研修2回参加した。</p>	<p>13: 人材育成目標の達成に向けて、教員一人ひとりが自ら自己研鑽に努めると共に、業界団体や企業等との連携を図っていく。また、そこで得た知識や経験を教育活動にフィードバックし人材育成の指導力向上に繋げていく。</p>
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	<p>関連企業と連携した研修を行い、職員の能力開発に努めている。</p>	<p>14.: 航空技術協会をはじめ専門分野に関する研修への参加を継続し、更なる能力開発に努めたい。</p>

#### (4)学修成果

評価 3.8

(4) 学修成果		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1 就職率の向上が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生35人に対し全員が内定した。</li> <li>航空旅客需要がコロナ感染前に近づく中で、航空関連企業の採用意欲も増加し順調に推移した。実績として全員が第一志望とはならなかったが、内定率100%を達成した。</li> <li>・継続して 第1志望企業への100% 就職を目指し、補習教育・通常授業 外面接指導にて就職内定率100% 維持を目指した。</li> <li>～R6年度実績:第1志望企業内定率 整備学科:72.7% グランドサポート学科:87.5%</li> <li>・SPI(一般教養)に関して選任教師をアサインし、就職活動に活かした。令和5年度から継続している。</li> </ul>	1: ・第一志望企業への内定を獲得するため、SPI、面接指導、企業研究、就職に有利な資格の取得等、就職指導の内容を引き続き向上させてゆく。 ・令和7年度もSPI(一般教養)は、選任教師を継続アサインして授業中。
2 資格取得率の向上が図られているか	3 前年 度評 価 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格ごとの合格率と学習効果を評価し、教材の変更や教え方の改善を常に行っている。【R6年度の実績は左記一覧表を参照】</li> <li>・航空整備学科 二等航空運航整備士資格取得は受験者9人に対し、1名が健康上の理由から途中(基本技術審査前)で受験を断念し、8名が合格した。今後学科として今回の事例を教訓に、体調管理を含め万全を期したい。8名の合格者に対しては、授業以外の放課後・休業期間中の資格試験対策等、教員も全力でサポートした。</li> <li>・グランドサポート学科 危険物(乙種第4類)の合格率は20%、昨年度(R5年度)が21%でほぼ同率の結果となった。目標が40%でありまだまだ結果が伴っていない。</li> <li>・危険物資格の取得実績 航空整備学科 14名受験し 9名合格、合格率64.2%、前年合格率57.1%に対し7.1%増で成果が出ているが、まだまだ改善の余地があると考えている。</li> <li>グランドサポート学科 20名受験し、合格者4名、合格率20%</li> <li>・英語検定に関し、当校を検定会場(準会場)として継続して開催。R6年度は3回開催した。1年生はほぼ全員(資格未保有者)が受験しており、継続して受験を呼び掛けたい。</li> <li>～R6年度実績(併願を含め延べ人数) 準2級: 26名受験し 12名合格、合格率46.1%、 3級: 34名受験し 16名合格、合格率47.0%、</li> </ul>	2: ・航空整備学科:航空従事者養成施設として、二等航空運航整備士資格取得は責務と捉えている。継続して全員の取得を目指す。 ・グランドサポート学科:危険物乙種第四類の合格率30%を目指す。 ～昨年まで40%としていたが、近年の実績を勘案し変更した。過去の問題集を参考にモチベーションを維持する姿勢を持たせ、合格率向上につなげたい。 ・英語検定に受験者数、受験級合格率向上を目指す。

3	退学率の低減が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席が多い学生に対し、早い時期から担任・学科長が保護者と連携して対応している。</li> <li>・令和 6年実績:退学者1名(令和 5年実績:0名) ～退学者は海外からの留学生で、ハラスメント・クラス内での問題ではなく、家庭内の事情で自主退学した。</li> </ul>	<p>3:心身面や経済的な事情を抱えている学生に対して、継続して各学科と教務・進路情報・事務部が連携を図っていく。又、各担任が学生とコミュニケーションを密にし、小まめな対応を継続する。</p> <p>4・5:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科では、卒業生の勤務先企業等(学科特有の業界)と交流する機会(企業説明会、企業見学会)を設け、卒業生の活躍状況、採用側からの評価を把握することに努めている。</li> <li>・教育課程への意見や提案を聴取し専門分野のキャリア教育の構築を図っていく。</li> </ul>
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 前年度評価 3	<p>社会的活躍については、必要に応じ可能な限り情報収集を心掛けている。在校生の状況は担任が把握しており、必要に応じて校務会議で報告している。</p> <p>卒業生の状況は、勤務先企業との情報交換で把握している。</p>	
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業生の動向は、広報を中心にキャンパスガイド・媒体誌の記事作成のための取材を通じて本人や企業からの情報を収集し、教育活動の改善に役立てている。</li> <li>・卒業生の来校時を捕らえて自身のキャリア形成状況を聞き取り、在校生の授業や学科運営に反映している。</li> </ul>	

## (5) 学生支援

## 評価 3. 8

(5) 学生支援		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する担当者、学科ごとに就職担当者を配置しており、求人情報の閲覧スペース、企業対応のため進路指導室を設置している。求人情報は管理されており閲覧可能な状態である。又、両学科共にカリキュラムとして「就職指導」の授業を設け支援している。</li> <li>・就職先の選択肢を拡げるべく、新たな就職先につき担当者間で協議検討を重ねている。</li> </ul>	1: <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生を就職させることは学校の使命であり、全員が内定を得られるよう継続してその支援にあたる。</li> <li>・より綿密な就職支援を実現するため、就職担当者と各学科の担当者と連携を密にし、きめ細かい就活支援に努めていく。</li> </ul>
2 学生相談に関する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談に関する体制は、クラス担任を中心に学科及び教務課により支援している。日常の学生行動を注視して悩み等を把握するように努め、担任を中心に保護者を交えて対応を行っている。</li> <li>・R6年度の設置実績はなかったが、R5年度は悩みを抱えている学生への対応として専任カウンセラーを設置した。</li> <li>～R5年度は整備学科の学生2名が受診した。</li> </ul>	2: 学生相談において メンタル面で問題を抱える学生への対応については、担任を中心に校内組織で事態の深刻化を回避する体制を整えている。 ・カウンセラーの常時設置は困難な状況であるが、必要時の臨時設置は今後も継続したい。
3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の経済的支援については、高等教育の修学支援新制度(高校の成績による入学金免除制度)、日本学生支援機構奨学金、茨城県奨学資金、教育ローン等の支援体制があり、高等教育支援制度については募集要項に明示している。</li> <li>・R6年度入学生対象に、当校独自の特待生奨学制度(成績優秀者に対する特待制度)を導入し、経済的に不利であっても努力している学生への支援を強化した。</li> </ul>	3: 学生に対する経済支援に関し、各種支援制度を継続して運用したい。
4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理を担う組織体制は整備されている。保健室も設置しており、職員室前にAEDも設置している。特段の感染症対策は実施していないが、日常に於ける感染予防を呼び掛けている。</li> <li>・R6年度 新型コロナウイルス感染者数: 20名(学生15名、教員5名) R5年度感染者14名で、対前年6名増加した。但し、R7年1月以降は現時点まで 感染者は発生していない。</li> <li>・R6年年末にインフルエンザが急増し、10名の感染者が発生。R6年度は1月を最後に発生しなかった。(R7年度は6月に1名が感染している)</li> <li>・熱中症対策への体制は出来ているが、近年は猛暑日が増しており更なる強化が必要。</li> </ul>	4: 引き続き文科省、私学振興室の指示に従い必要に応じて専門機関に協力を依頼し対応する。 ・R7年度(2,025年6月1日)より熱中症対策が義務化(*)されることになり当校でも省令に基づき体制を強化する。 (*)労働安全衛生規則の改正省令が施行される。
5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前は一部学生から部(クラブ)の創設の声もあったが現在はない。学生に時間的余裕がないこともあり、現状は課外活動に対する支援体制は実施していない。</li> </ul>	5: サークル(部)の設置は、今後学生の希望を把握し、体制を検討していく。現在、昼休みと放課後にエプロンの一部を運動スペースとして解放し多くの学生が利用している。 * 運動用具として、野球用グラブ・ボール、サッカーボール、バドミントンラケット等準備している。

6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年度中に新校舎が完成し運用はR7年度からであるが、学生の学習環境は改善される。</li> <li>・以前(令和2年度まで)は食堂を完備していたが、新校舎建設に伴い運営と経費上の観点から廃止となった。食堂に替わる昼食の手当は、以前から実施している弁当による注文受付を継続している。</li> <li>・R6年度は、毎週2日(月、水)に弁当の販売、隔週の火曜日にパンの販売を実施している。</li> <li>・生活面では、通学の便を図るためのスクールバスを運行しており、自動車・バイク通学をする学生には駐車場を完備している。</li> <li>・通学が困難な学生のためにR5年度までは指定寮を紹介していたが、R6年度からは指定アパートを継続して紹介している。指定アパートは現時点で満室の状態。</li> </ul>	6: 毎日の弁当手配は継続しつつ、並行して安定的な昼食の手配(デリバリー体制の構築)が得られるよう検討している。
7	保護者と適切に連携しているか	4	<p>学生指導面を中心に担任が保護者と連絡を密に対応している。状況に応じて校長、学科長や教務課が関わっている。</p>	7: 近年は、学生指導面に限らず、就職活動に関して保護者からの問合せもあり、就職担当者を含めきめ細かく対応してゆく。
8	卒業生への支援体制はあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の継続学習や資格取得の支援を行っているが、近年は実績がない。(卒業生からの要望がない)</li> <li>・航空整備学科: 平成30年度に卒業生1名を受入れ、本校で2等航空整備士を受験し資格を取得して以来実績がない。</li> <li>・グランドサポート学科: 令和2、3年度と卒業生の就職先企業に於ける特殊器材運転資格取得訓練を受け入れ、学校の器材を提供した。昨年度は実質的な訓練はなかった。</li> <li>・就職活動に関しては、既卒者からの支援依頼は少ないが、都度相談に乗っている。</li> </ul>	8: 当校として、卒業後3年未満の学生に対して就職活動への支援を今後も積極的に行っていく。
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度以降の実績はなく、過去の実績を記載する。</li> <li>①令和元年度: 企業職員の資格取得支援のため施設設備を貸し出した。(基本技術Ⅱの国家技能審査を当校にて実施)</li> <li>②平成30年度: 企業職員の資格取得支援(工場整備士資格取得)のため、教官1名の派遣を行った。</li> <li>・今後は、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備、検討していく。</li> </ul>	9: 社会人や企業からの要望を収集し、可能な範囲で講習会や講師派遣、施設の貸し出し等継続して行く。
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校からの依頼により、職業教育の一環として模擬授業を継続して実施しており、好評を得ている。</li> <li>・令和6年度の実績: 2校にて開催。(R5年度の実績: 1校実施)</li> </ul>	

## (6)教育環境

## 評価 4.0

(6)教育環境		評価：適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		
	評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"><li>・専門教育に必要な施設設備は指定基準を満足しているものの中長期計画の中で、実験実習機材等の一層の整備・充実を図る必要がある。</li><li>・航空整備学科、グランドサポート学科が使用している『西棟』は、新校舎建替計画の一環で、実習棟と合わせ来年度中の使用開始に向け計画が進んでいる。</li><li>・2等航空運航整備士・基本技術Ⅱの航空従事者養成施設としての施設・設備は整えている。2年毎に実施される航空従事者養成施設更新検査にて施設検査も行われ適切に対応している。</li><li>・R6年度中に新校舎(座学棟/実習棟)が竣工し、R7年度新学期から使用を開始している。施設設備も新しくなり、教育環境は格段に改善される。</li><li>・新校舎建設に伴い留学生コース用実習場が使用不可となったことと、留学生が増加したことによりエプロン場の使用頻度が増え、整備学科との調整機会が増した。</li></ul>	<p>1: 今後予想される 学生増への対応と 国土交通大臣指定航空 従事者養成施設 として十分な実習を行う為、施設・設備の充実を図る。</p> <p>・グランドサポート学科の実習授業で使用中のGSE関連機材は早目の更新が必要で対応している。</p> <p>・R7年度に入り留学生数は更に増加した為、エプロン実習場の調整を綿密に実施して行く。</p>
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	<ul style="list-style-type: none"><li>・各学科に合わせた実習・企業研修は整備されている。</li><li>・現在企業研修という形で、グランドサポート学科を中心に内定先企業に参加し有効に機能している。</li><li>・海外研修は計画していない。</li></ul>	<p>2: 企業研修に関して学校側から企業担当者に積極的にアプローチし、研修中の学生に関する情報を今まで以上に共有化する。</p>
3	防災に対する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"><li>・地震・火災を想定した防災訓練は年1回計画している。</li><li>～令和6年度は9/17(火)に全校で避難訓練を実施した。</li></ul>	<p>3: 防災体制の強化として、取手消防署と連携した防災訓練も検討していく。</p>

## (7)学生の受け入れ募集

## 評価 4.0

(7)学生の受け入れ期間		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1 学生募集活動は、適正に行われているか	4	<p>・令和6年度の学生募集活動は適正に行い、入学者数(令和7年度入学)の実績では対令和4年度学生募集(令和6年度入学)の5%増と少しずつ増加傾向にある。</p> <p>・令和6年度より、募集活動の中心である高校訪問だけでなく、Web、SNSの運用にも注力した。</p> <p>・オープンキャンパスの開催日程が多いことのデメリットとして、1回あたりの動員数が少なく参加者の不信感に繋がっていたため、開催日程をR5年度に引続き削減し1回あたりの動員人数を増やしたことで、“活気のある学校”の印象づけに努めた。又、学生代表チームSA(Student Assist)を発足し、学生と共にオープンキャンパスの企画・運営を実施することで来校者だけでなく、学生・教職員の満足度も上がり”活気ある学校の創造”に貢献した。</p> <p>～R6年度実績13回開催172名参加。(R5年度13回開催142名参加)</p> <p>・令和5年度に引き続き全国工業高校校長協会主催の工業高校の先生向けイベントを開催し、航空業界の認知度向上を図った。</p> <p>～航空整備学科:航空機整備工場見学・体験会を開催(8月)11名参加。</p> <p>グランドサポート学科: 空港内制限区域等見学・体験会を開催(8月)9名参加。</p> <p>・航空業界を目指す高校生向け空港見学イベント”そらキャン”を実施。</p> <p>応募総数:53組 R5 年度実績は88組</p>	<p>1:</p> <p>・令和6年度に引続き、国内広報課と連携したイベントを企画し、積極的な参加で入学者増を目指す。</p> <p>①高校生及び保護者対象の空港見学イベント『そらキャン』の開催。</p> <p>②工業高校の先生向けイベントとして、全国工業高校校長協会主催のエプロン見学会、航空機整備工場見学会を開催し、航空業界の認知度向上を図り入学生増に繋げる。</p> <p>・オープンキャンパスについては、R6年度は回数の見直し(削減)と内容の充実を図ったのでその検証を行い、引続き短期集中型で入学者増を目指す。</p> <p>・R6年度学校推薦型選抜入試には適性検査、一般選抜入試には筆記試験を導入した。引続き入学前に入学対象者の基礎学力レベルを把握し、入学後の指導方針に繋げる。</p>
2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	<p>学校パンフレット、ホームページ、進学情報媒体等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に分かりやすく紹介している。高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供も行っている。</p> <p>継続的な高等学校への訪問により、高校教員の航空分野の将来性についての理解、信頼出来る航空専門学校としての位置付け向上に繋がっている。</p>	<p>2:昨年に引続き、連携企業イベント見学会(空港見学会・航空機整備工場)を高校の先生向けに開催(夏季に予定)することで、航空業界の認知度向上を図り学生募集に繋げたい。</p>
3 学納金は妥当なものとなっているか	4	<p>学納金等徴収する金額はすべて明示しており妥当なものといえる。また、入学辞退者の授業料返還については、文部科学省通知の趣旨に基づき適正に取扱っている。</p> <p>学納金の支払い方法は分割でも可としているが、事前に提出されている納金計画通りに納金していない学生について、適切に納金してもらうため、学科・担任と情報共有を行い、学生への働きかけや納金計画の確認などを行える体制を構築している。</p>	

## (8)財務

評価 4.0

(8)財務		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
	評価項目	評価	状況と課題
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	令和6年度は成田国際航空専門学校、学園ともに教育収支、経常収支は黒字であり、財務基盤は安定している。
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	令和6年度予算、収支計画に従って運営されている。
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	公認会計士による年2回の会計監査が法定通り行われている。
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	ホームページへの公開ほか希望者への閲覧体制を整えている。

### 【今後の改善方策】

1:財務基盤の安定には、入学者確保や退学者の低減、経費節減に努めていかなくてはならないことを全教職員の共通理解として取り組む。

## (9)法令の遵守

評価 3.5

(9)法令の遵守		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
	評価項目	評価	状況と課題
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令遵守に留意し、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準をはじめとする関係法令に基づいた学校法人運営、学校運営を行っている。
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	個人情報保護に関する対策は、法律及び学校法人で定めている個人情報管理規程に則り学内情報の管理を実施している。しかし、情報の取り扱いが社会問題化していることから教職員間の再認識、共通理解が必要である。
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	・自己評価に関しては、学校関係者評価委員会開催前に自己評価委員会を開催し実施している。 ・自己評価委員会では分析検討を行って問題はないが、分析、課題、改善方策を含めてその過程に於ける情報共有について改善の余地がある。
4	自己評価結果を公開しているか	4	評価結果は報告書として閲覧可能な状況になっており、ホームページに掲載するなど広く社会に公表している。

### 【今後の改善方策】

2:学校法人で定めている個人情報管理規程をもとに、個人情報の取り扱いに関する体制・基本ルール、保有する情報の紛失、漏えい、改ざん等を防ぎ、情報管理に関する社会的責任について教職員の共通理解を図っていく。

3:評価結果の分析により課題点を明確にすること、その課題をどう解決していくかまでの検討をしっかりと行い、実行に移すまでの流れを構築していく。

## (10)社会貢献・地域貢献

## 評価 3.3

(10)社会貢献・地域貢献		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度以降、学校の施設活用についての実績はないが、各種国家試験会場として教室の提供を行っている。</li> <li>・英語検定に関し、一次試験の準会場として継続して使用している。 ～準会場としてR6年度は3回実施して延べ60人(併願を含む)が受験した。</li> <li>・R5年度実績: 2回開催して40名(併願を含む)受験。</li> <li>・当校は所在地である小堀地区の災害時避難場所に指定されている。</li> <li>・R6年度に以下の契約を締結した。(R6年9月9日) ～『原子力災害に係る避難先提供についての確認書』を茨城県原子力安全対策課と締結し、東海村原子力発電所での事故発生時の避難所として当校を提供することとした。</li> <li>・エプロンを緊急時のドクターヘリの離着陸場とし、校舎を災害時の避難場所として地域へ便利供与している。2023年以来実績はない。</li> </ul> ドクターヘリの実績は過去3回 (2018年8/3日、2020年8/5日、2023年4/4日)	1: 社会・地域貢献のために、学校の施設提供を積極的に進める。 ・英語検定は準会場として英語協会指示のもと継続して開催する。 ・令和5年度まで当校にて求職者支援訓練(*)を当校の教室を利用し開催した。(令和3年度より実施)新校舎建設と留学生増加に伴い教室数に余裕がなくなりその開催が不可となった。 (*)厚生労働省管轄の独立行政法人が主催し学校法人が実施。
2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	ボランティア活動については、学生個々にて実施している。引き続き学校全体として積極的に奨励、支援していく。	2: ボランティア活動は、地域社会への貢献ばかりでなく、学生の人格形成や職業意識の向上に繋がるものと考えられ、活動支援ができるよう体制構築を考える。 ・学校が主体となって、小堀地区での清掃を中心としたボランティア活動を検討する。
3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の実績として、業界人向けの教育受託として、企業職員の資格取得支援のため教官の派遣を行った。</li> <li>・近年派遣の機会はない。</li> </ul>	3: ・今後、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備・検討していく。 ・地域貢献のために各種国家試験会場提供や、地元の小・中学生を対象とした職業観の育成に役立つ講座等を検討していく。